

古典とつながる

岐阜市立青山中学校 3年
牧野 みお（まきの みお）

「温故知新」みなさんもこの言葉を聞いたことがあると思います。

子曰く、「故きを温めて新しきを知れば、以て師為るべし」と。

私は、最近この言葉に出会いました。それは、この間の国語の時間、約2500年前に孔子の弟子たちによって書かれた「論語」について勉強した時のことです。

正直、古典は今と言葉が違うので、私はあまり好きではありません。しかし、仲間と一緒に調べたり、タブレットを使って意味を調べたりすることで、この言葉のもつ意味を知ることができました。「今のあなたとつながるところはあるかな。」そう問われた先生の言葉を聞いて、私はある出来事を思い起こしました。

私は今、青山中学校前期生徒会長をしています。「自信」というスローガンを掲げ、全校生徒一人一人が自信をもって学校生活を送れるようにと願い、活動を始めました。コロナ禍ということで今年度もやれることは限られています。年度当初から学習旅行が後期に延期され、その影響で例年なら9月にある予定の体育大会が前期に行われるということが決まっていました。日増しに増えるコロナ感染者の数。もしかしたら、今年度も昨年度と同じように体育大会ができないかもしれない。そんな思いがよぎりました。そんな中、校長先生と私と副会長の斉藤さんとで体育大会について話し合う機会がありました。校長先生は、私たちの体育大会への思いが聞きたいとおっしゃってくださいました。そこで校長先生から「例年のような体育大会は出来ないかもしれない。それでもやりたい？」とおっしゃって下さいました。私と斉藤さんは顔を見合わせながら迷わず「やりたいです!」そう答えました。そこから、5月26日に向けての私たちの挑戦が始まったのです。

もちろん体育大会を運営する側になるのは、初めての経験です。しかも、コロナ禍いうことを踏まえたものにならなければなりません。私は陸上部なので、毎年のリレーがすごく楽しみでした。特に団対抗リレーでは、学年関係なく各団の勢いが現れるので、見ていてとても気持ちが高ぶります。しかし、密を避けるために今年度は全校で集まることができなくなりました。私が一番楽しみにしていた団対抗リレーは行えなくなりました。私はすごく落ち込みました。また、運営をしていく中でも、たくさんの高い壁に直面しました。何から始めればいいのか分からない。どんな役割が必要なのか分からない。話し合いの進め方が分からない。無数の「分からない」が私を追いつめていきました。そのうえ、執行部のみんながなかなか自分たちの意見が通らないことに腹を立て、担当の先生と対立する場面がありました。私は分からないことが多いばかりか、執行部と先生との間に挟まれて、もう限界でした。

そんなとき、生徒会室の奥の棚にある一つのファイルを見つけました。それは、過去の先輩が残して下さった体育大会の運営に関する資料です。もちろんそこには、私たちが創ろうとしている新しい体育大会については載っていません。ですが、そこには過去の先輩たちがどんな思いで体育大会を作ってきたのか、どんな気持ちを全校のみんなに味わってほしかったのかという素敵な思いが詰まっていました。私はそのファイルを見たことで、今まで抱えていた不安が少し軽くなったような気がしました。それから私は、そのファイルと何度もにらめっこしながら、執行部との話し合いを重ねました。バラバラだった執行部の意見も一つにまとめ上げることができました。

そして迎えた、5月26日。その日は気持ちのいい快晴でした。各学年で時間を分けた学年別での開催。当日はたくさんの笑顔に出会うことができました。また、「楽しかったよ。」と私のもとまで伝えに来てくれる仲間がたくさんいたことが私はとても嬉しかったです。

まさか新しいことを生み出すのに、過去の先輩が残した資料が役に立つなんて。2500年前に孔子がおっしゃったことが今の私に響くなんて。

論語に出会い、孔子に出会い、私の世界は少し広がったような気がします。そう思うと、古典って、案外悪くないなと思っています。「温故知新」それは、私にとって、とても大切な言葉になりました。